

経験させたい主な活動

- ・基本的な運動機能の発達を促すために、全身を使って遊ぶ（まてまて遊び、手押し車、滑り台、ボール遊び等）
- ・手指を使った遊びを通して手指の機能を高める（型はめ、ポットン落とし、シール貼り、積み木、なぐりがき、スコップで砂をすくったり入れたりするなど）
- ・感触遊びを楽しむ（砂・水・紙）
- ・保育者と一緒に歌ったり、音の出る玩具を鳴らしたりして遊ぶ
- ・手遊びやふれあい遊びを楽しむ
- ・興味のある絵本を保育者と一緒に楽しむ
- ・身の回りの物で遊びながら、見立て遊びや探索活動をする

＜家庭との連携＞

- ・行動範囲の広がりとともに、探索活動が盛んになる時期であることやその意味を伝え、安全には十分に配慮しながら、子どもの興味や関心を見守り、子どもの発見に共感したり言葉を添えたりする大切さを知らせていく。
- ・子どもと一緒に食事をする中で、興味をもたせたり、食べ方を見せたりすることの大切さを知らせる。

教育的意図をもった働きかけ	知の視点から	・安心できる保育者と一緒に関わって遊ぶことで、楽しさを共感し、「やりたいな」という気持ちを引き出せるようにする 事例5 ・喃語や片言の意味を理解し、話すことが楽しいと思えるように関わるようにする ・簡単な言葉の繰り返しのある絵本を選ぶ ・言葉の発達を促すために、子どもの気持ちをゆったりと受け止め、思いを代弁したり共感したりして応答的に関わる ・季節の歌や簡単な歌を毎日繰り返し、一緒に歌う ・いろいろな素材に触れる機会をつくり、環境を整え、感触を十分に楽しめるようにする
	徳の視点から	・子どもの不安や要求に気づき、十分に受け止め、スキンシップや言葉かけ等を通して保育者との愛着関係を築いていけるようにする ・子どもの意欲をそぐことのないよう、十分な数の玩具やスペースを準備したり、保育者が言葉や動作を添えながら関わり方を知らせたりする ・自分でしようとしている時や熱中している時には温かく見守り、また、子どもの発想や驚きを見逃さず受け止め、共感する
	体の視点から	・興味をもって楽しめるような玩具をそろえたり、落ち着いて遊べる環境を整えたりする ・着替えや排泄等、身の回りのことを保育者の世話を必要としながらも、子どものやりたいという気持ちを十分に受け止める 事例6 ・自分で食べようとする気持ちを大切にしながら、スプーンの持ち方を確認し、使い方を知らせていく ・個々の排泄の間隔を把握し、トイレに誘いかける ・安全に配慮し、子どものやりたい気持ちに寄り添いながら、探索活動や遊び等が十分できるような環境を整える

(1歳6か月頃 ～ 1歳9か月頃)

ねらい	○一人遊びを楽しむ中で、周囲の物に関心を持ち、いろいろな物に触れて遊ぶ ○保育者に甘えたり、「自分で！」の気持ちを十分に受け止めてもらったりして、安心感や信頼感をもつ ○変化のある道を歩いたり、斜面を登ったりしながら全身を使って遊ぶ
発達のためやす (1歳6か月頃～ 1歳9か月頃)	
子どもの育ち	知 ○発語が盛んになる ○保育者の言葉を聞いて繰り返したり、言葉の語尾をまねたりする ○保育者の簡単な言葉がけや指示が分かるようになる ○表情やしぐさを模倣する ○積み木や箱を車や電車に見立てて遊ぶ ○カップに砂を入れたり出したりして遊ぶ ○自分の手に合った容器のふたの開閉をしようとする ○絵本のページを1枚ずつめくる ○粘土や紙をちぎったり丸めたりする ○水、砂、紙などいろいろな素材に触れることを喜ぶ ○左右に大きく手を動かし、線をかいたり紙いっぱいにくるぐるとかいたりする
	徳 ○信頼できる大人とふれあい遊びをする ○保育者を相手に「どうぞ」「ありがとう」などとやり取りをする ○名前を呼ばれると「はい」と応える ○欲しい物があると「ちょうだい」と言いながらもらいにいこうとする ○自分でできないときは、指さしたり、助けを求めたりして保育者に伝えようとする ○「待っててね」と言われると、少しの間待つようになる ○遊んだ後の玩具を保育者と一緒に決まった場所に片付けることができるようになる ○友達が同じような玩具を使っていると取り合いになることがある
	体 ○ボールを両手で持って投げたり転がしたりして遊ぶ ○歩き方が速くなり、歩行での転倒が少なくなる ○股のぞきができるようになる ○くぐったりまたいだりして遊ぶ ○滑り台を滑る ○水道の蛇口をひねる ○箱を動かす ○こぼしながらも、スプーンを使って自分で食べようとしたり、コップを持って自分で飲もうとしたりする ○オマルや便器に座ることに慣れる ○排泄したときに、表情やしぐさで知らせようとする ○パンツ、ズボンを自分で脱ごうとする

経験させたい主な活動

- ・全身を使い、運動機能の発達を促す遊びを十分に行う（まてまて遊び・つま先立ち・背伸びをして身体全体を伸ばす・ひもを引っ張る・ひっかける・斜面階段の上り下り・その場ジャンプ）
- ・手指を使う遊びを十分に行う（型はめ・ボタン通し・シール貼り・なぐりがき・容器のふたの開け閉め・フックに物を掛けたり、外したりする）
- ・保育者や友達と一緒に歌ったり、音楽を聴きながら音の出る玩具を鳴らして遊ぶ
- ・身近な動物や食べ物、乗り物が出てきたり、言葉のやり取り等、繰り返しのある絵本を見る
- ・身の回りの物で遊びながら、見立て遊びや探索活動をする

＜家庭との連携＞

- ・やりたい気持ちや言葉を引き出すために、大人と一緒に遊びながら共感したり、言葉を添えたりする大切さを知らせる。
- ・好奇心旺盛で何でもやってみたい時期なので、目を離さず、身の回りの安全に十分気を配っていくことを伝える。
- ・おむつが濡れていないときはトイレに誘い、便器に座る経験を、少しずつ重ねていけるように伝える。

教育的意図をもった働きかけ	知の視点から	・全身を使った遊びや手指を使った遊び等で、子どもの自発的な活動を大切にしながら保育者がして見せるなど、一緒に関わって遊ぶようにする 事例7 ・言葉の発達を促すために、子どもの気持ちをゆったりと受け止め、思いを代弁したり、共感したりして応答的に関わる ・自然物にたくさん触れ、五感を十分に働かせる経験を重ねる ・一人遊びが十分にできるように、興味をもった遊びを楽しめる場や物、時間の保障をする ・興味、関心をもって、探索活動や遊びなどが十分できるような環境を整える ・気持ちを十分に発散しながら自由にかけるような環境をつくる
	徳の視点から	・保育者とやり取りをしながら、友達との関わり方を知らせていく ・友達への興味・関心がもてるように、一緒に遊ぶ機会をつくる ・自分でしようとする気持ちを十分に受け止め、見守ったり励ましたりしていく 事例8 ・子どもの意欲をそぐことのないよう、十分な玩具やスペースを準備したり、保育者が言葉や動作を添えながら関わり方を知らせたりする
	体の視点から	・押す、引っ張る、転がすなどの全身運動やつまむ、ちぎる、たたく、握るなど手指を使う遊びを十分に体験できるようにする ・一人ひとりの生活リズムに合わせ、生活習慣を身に付けていけるようにする ・歩行の発達に伴い行動範囲が広がり、予測できない行動が多くなるが、室内の安全点検を行うなど、安全への対応を十分に行う ・身体発育や運動機能の発達には、個人差が大きいことを考慮し、一人ひとりの状況を把握する

ねらい	○自分の思いや気持ちを言葉に置き換えてもらいながら、気持ちを伝える喜びや言葉を使う楽しさを感じる ○保育者に自分の気持ちを安心して表し、受け止めてもらえる心地よさを感じる ○個々の手・足・全身の運動機能の発達に応じた運動遊びを十分に楽しむ
発達のめやす (1歳9か月頃～ 2歳頃)	
子どもの育ち	知 ○語彙が増え、二語文を話すようになる ○大人の言ったことや言葉の調子をそのまままねようとする ○保育者や友達の名前を言うようになる ○身の回りの物に名前が付いていることが分かってくる ○いろいろな素材や玩具などを実物に見立てるようになる ○物を容器に集める (かばん・入れ物・ボウル等) ○小さな積み木を積み上げようとする ○指を使う操作活動 (つまむ、めくる・はる・はがす・開ける・通す・ねじる・ちぎる・なぐりがき等) が多様になる。
	徳 ○身近な人や身の回りの物に自発的に働きかけ「自分でしたい」という欲求を出す ○大人に追いかけられるのを好み、後ろを振り返りながら喜んで逃げる ○大人と手をつないだり、子ども同士でも手をつないだりする ○友達の仕草や行動をまねて同じように楽しもうとする ○自我が芽生え、保育者の促しに「いや」「だめ」と拒否をするようになる ○友達の持ち物が分かり、友達に帽子や靴等を渡そうとする ○自分の意思をはっきりと示すようになり、物の取り合いなどが生じるようになる
	体 ○歩行が安定し、長い距離を歩けるようになる ○一定時間、午睡をする ○その場で跳ぶことができる ○手すりや横の壁につかまりながら一段ずつ、時には足を交互に出して階段を上がる ○斜面や段差の上り下りをする ○しゃがんで遊ぶ ○ボールを蹴る ○排尿の間隔が長くなり、促すと便器で排尿し、排泄前後に動作や言葉で知らせようとする ○衣服の着脱に興味をもち、自分でし始める ○こぼしながらもスプーンを使いながら、ほとんど自分で食べようとする

経験させたい主な活動

- ・全身を使う遊びを楽しむ（まてまて遊び・斜面や階段・段差の上り下り・その場ジャンプ・ろくぼくを渡る・大箱を押して歩く・大きめの遊具を引っ張って歩く・乗り越える・運ぶ・くぐる）
- ・手指を使う遊びを通して、手指の機能を高める（丸、四角、三角、長四角の型はめ・ポットン落とし・洗濯バサミ・ひも通し・シールはがし・シール貼り・入れる・出す・なぐりがき等）
- ・感触遊びを楽しむ（砂・水・紙・土等）
- ・友達と一緒に歌ったり、音楽を聴いて音の出る玩具鳴らしたりして遊ぶ
- ・興味のある絵本を見る
- ・手遊びやふれあい遊び、わらべうた遊び、体操等をして遊ぶ
- ・身の回りの物で遊びながら、見立て遊び、生活再現遊びをする（料理の再現・人形遊び等）

＜家庭との連携＞

- ・子どもの成長の表れとして拒否の言葉が多くなるが、子ども自身が選んで決められるように「どうしたいのかな？」「どっちがいいのかな？」など聞きながら、待つことも方法の一つであるなど、具体的な方法を伝えていく。
- ・片言の話に応答したり会話したりすることが、言葉の獲得や気持ちの共有になっていくことの大切さを伝える。

教育的意図をもった働きかけ	知の視点から	・指さしや身ぶり、片言で言おうとしていることを受け止め、言葉にして返し、子どもが気持ちを伝える喜びや言葉を使う楽しさを感じられるようにする 事例9 ・気持ちを表現できるように、思いを代弁したり共感したりして応答的に関わる ・保育者が言葉や動作を添えながらやり取りを促していく 事例10 ・生活や遊びを通して、身の回りの物の名前や動作などを伝えていく ・いろいろな遊びに意欲をもつことができるよう、一人ひとりの発達や好きな遊びを理解し、個々に合わせた丁寧な関わりをする ・見る、聞く、触るなどの経験を通し、感覚の働きを豊かにする
	徳の視点から	・子どものやりたいという気持ちを十分に受け止めながら、一人ひとりに合った援助をしていく ・友達のことを意識したり、気にかけてできるよう、一緒に遊ぶ機会をつくる ・友達に親しみがもてるような、言葉がけや仲立ちをする 事例9 ・安心して気持ちを出せるよう、子どもの要求や欲求をしっかり受け止める ・物の取り扱いによって子どもの意欲をそぐことがないよう、十分な玩具やスペースを準備したり、保育者が言葉や動作を添えたりしながら関わり方を知らせていく
	体の視点から	・個々の発達を把握し、斜面や段差を登る、でこぼこ道を歩く、バランスをとるなど個々に合った運動遊びを経験することで、身体を動かして遊ぶ楽しさを味わえるようにする 事例11 ・生活習慣を身に付けるために手順を一定にし、一緒にしたり、自分でできるように言葉をかけたりする ・排泄時は、保育者がそばにつき、成功した時はしっかりと褒めて自信につなげていく ・自分で布団に入り心地よく眠れるように布団の場所を固定し、眠りやすい環境をつくる ・個々の食事状況を見て、スプーンやフォークの持ち方を知らせ、自分で食べようとする意欲を育む

ねらい	○大人と一緒に簡単なごっこ遊びを楽しむ ○保育者と一緒に、身の回りのことを自分でしようとする ○身体を動かすことを十分に楽しみ、全身運動を滑らかにする
発達のためやす (2歳頃~2歳6か月頃)	
子どもの育ち	知 ○「ちょうだい」「もういっかい」などの要求を表す言葉を使うようになる ○「おはよう」「さようなら」など生活に必要な挨拶をするようになる ○絵本や紙芝居を楽しんで見たり聞いたりし、繰り返しのある言葉の模倣を楽しむ ○積み木やブロックを積んだり、並べたり、つないだりして、何かに見立てて遊ぶ ○クレパスやマーカーでぐるぐると曲線にかく ○知っている歌や手遊びを保育者と一緒に楽しんだり、音楽に合わせて体を動かしたりして遊ぶ ○身近な生き物や草花に興味をもち、見たり触れたりする
	徳 ○「自分で」と自己主張をし、いろいろなことを自分でしようとする ○保育者との信頼関係を深め、自分のしたいことやして欲しいこと、伝えたいことなど自分の気持ちを十分出し、自分の気持ちが受け入れられると気持ちがよいことを知る ○思い通りにならない時は、気持ちがコントロールできず頑固な行動をとったりする ○遊んだ後に保育者と一緒にもとの場所に戻そうとする ○友達のしている遊びに興味をもち、まねたり同じ事をしたりする ○自分のロッカーや靴箱など自分の物の置き場所が分かり、自分の物と人の物を区別して扱う ○「待っててね」の意味が分かり、言葉がけで少し待つ ○保育者の言葉かけで危ないことやしてはいけないことを知ろうとする
	体 ○身体を動かして好きな遊びを楽しむ ○手や指先を使う遊びに興味をもってしようとする ○砂や泥の感触を楽しむ ○スプーンやフォークを使って一人で食べようとする ○排泄をしぐさや言葉で知らせたり、促されて便器で排泄したりする ○保育者に援助されながら着脱や昼寝をしようとする ○手洗いの仕方を知り、保育者と一緒にする

経験させたい主な活動

- ・全身を使う遊びを楽しむ（三輪車―地面を蹴って進む、追いかっこ、遊具にのぼる、両足ジャンプ、箱でつくった橋を渡る、ボールを投げる・蹴る・追う）
- ・手指を使う遊びをする（積み木を並べる、高く積み、ボタン付け、ひも通し、ペグさし、粘土）
- ・感触遊びを楽しむ（砂、土、水）
- ・歌をまねて歌う
- ・リズムにのって身体を動かしたり、体操をしたりする
- ・園所庭を探索する（葉っぱや石を集める、生き物の観察、砂を葉や花で飾る）
- ・身の回りのもので遊びながら、見立て遊び、生活再現遊びをする

＜家庭との連携＞

- ・二語文を話すようになり、おしゃべりが盛んになってくるが、この時期は言語面でも個人差が大きく、まだあまりしゃべらない子どももいるため、大人が話しかけることの大切さや、具体物を対応させながら話をするなど、どのように関わったらよいかを知らせていく。
- ・何でもいやいやと泣くなど、子どもとどう関わったらよいかと悩むことが多くなる時期なので、子どもの気持ちの揺れも成長の過程であることを知らせ、子どもが気持ちを立て直せるように代弁するなど、優しく見守って待つことの大切さを知らせていく。

教育的意図をもった働きかけ	知の視点から	・子どもの感じていることを簡単な言葉にして表したり、やり取りを楽しめるように言葉を使ったりする ・挨拶等、生活に必要な言葉を使う機会を捉え、その都度丁寧に伝えていく ・言葉の繰り返しや言い回しのおもしろさがある絵本を用意し、興味をもてるようにする ・一人ひとりが自分の好きな遊びを見つけ、その遊びをじっくり楽しめるような環境を整える ・保育者がやって見せるなど一緒に関わって遊ぶ中で、子どもの好奇心を育む ・身近な自然に関わる場面を捉え、発見や驚きを伝えていく
	徳の視点から	・安心して自分の思いを出せるように、子どもの気持ちに寄り添い受け止める ・保育者が仲立ちとなり、子ども同士の関わりを広げていく ・子どもの思いや気持ちなどを簡単な言葉にして伝える ・思い通りにならず、気持ちが立て直せないときは、保育者が代弁し優しく見守って待つ ・遊具の片付ける場所を分かりやすく表示することで、自分で片付けようとする気持ちをもてるようにする ・自分でしようとする気持ちを受け止めながら、必要に応じて適切な手助けをする ・危険なことや、してはいけないことは理由を話し、繰り返し伝えていく
	体の視点から	・やってみたくなるような場や遊具を用意し、繰り返し遊べるようにする ・体操やふれあい遊び、リズム遊びなどを保育者が一緒に遊ぶことで、身体を動かす遊びの楽しさを知らせる ・食事、排泄、睡眠など安心して生活できるように保育者がゆとりをもち、ゆったりとした生活リズムと雰囲気づくりをする ・避難訓練では、子どもが安心して避難できるように不安な気持ちを受け止める

ねらい	○身の回りのいろいろなものに興味や関心をもち、やってみたい、使ってみたいという意欲をもつ ○友達のしていることに興味をもち、保育者の仲立ちで友達と遊ぶ楽しさを感じる ○いろいろな遊具や用具を使って身体を十分動かすことを楽しむ	
	発達のためやす (2歳6か月頃 ~)	
子どもの育ち	知	○保育者や友達の名前を覚えたり、生活や遊びに必要な言葉を知ったりし、使おうとする ○おしゃべりが盛んになり、自分の経験したことや気持ちを自分なりに周りに伝えようとする ○簡単なストーリーのある絵本や紙芝居を楽しんで見る ○生活や遊びの中で、簡単な物の形、色 (赤、青、黄)、数、大小に興味をもつ ○形の違いが分かるようになり、パズルや型はめ、絵合わせを一人で完成させようとする ○クレパスやマーカーでかいたものに、自分なりに「くるま」「かお」と意味づけをする
	徳	○友達のしていることに興味をもち、友達と遊ぶ楽しさを感じる ○自己主張が強く玩具の取り合いや気持ちのぶつかり合いになることが多いが、保育者を仲立ちとして、相手の思いを聞こうとする ○身の回りの物や使った玩具を保育者や友達と片付けようとする ○保育者の言葉がけで危ないことやしてはいけないことを知る
	体	○走る、ジャンプするなど体を動かす ○保育者や友達と一緒に集団遊びを楽しむ ○散歩に出かけることで、戸外の自然に触れて遊ぶ ○スプーンやフォークを持って、一人で食べようとする ○苦手なものも、少しずつ食べてみようとする ○尿意便意を知らせ、トイレで排泄するようになる ○衣服の着脱に関心をもち、保育者に言葉をかけられながら、衣服の着脱や片付けをしようとする
経験させたい主な活動	・全身を使う遊びを楽しむ (後ろ向きに歩く、三輪車を片足で蹴ったりこいだりする、転ばずに走る、高さが違ったり、少し間隔があいたりしている箱を使いバランスを取って渡る) ・友達と一緒に遊ぶ (なべのなかのくり、むっくりくまさん等) ・手指を使う遊びをする 紙…丸める、破る、ちぎる 粘土…手のひらで押ししたり細く伸ばしたりする・指先に力を入れて形を変える シール貼り、カップ重ね、型はめ、洗濯バサミ ・絵合わせパズルで遊ぶ、色ごとに集める ・ごっこ遊び (友達や保育者と簡単なやり取りをして遊ぶままごと、人形遊び) ・園所庭を探索したり散歩をしたりする ・身の回りの物で遊びながら、見立て遊び、生活再現遊びをする ・簡単なルールのある遊びをする (鬼ごっこ、かくれんぼ、ひっこしゲーム、しっぽとり等)	

＜家庭との連携＞

- ・身の回りのことを全部自分でやりたいと興味が出てくる時期であるので、子どもが自分で着替えやすく、できたうれしさを感じられるよう、扱いやすいボタンやスナップの大きさなどを具体的に知らせていく。
- ・保護者が子どもにして見せたり、今後、子どもたちの様子に合わせて教えたりする時の参考になるよう、箸やスプーンなど成長に合わせた使い方、トイレトペーパーの切り方、たたみ方、拭き方など、伝えていく。
- ・基本的な生活習慣を身に付けていけるよう、家庭での方針を聞きながら その子どもに応じた時期や方法を家庭と園所で共に考え進めていく。

教育的意図をもった働きかけ	知の視点から	・身の回りの物や生き物などへの興味をもてるように、子どもからの問いかけに丁寧に応じ言葉の獲得につなげていく ・繰り返しや、やり取りの面白さが入った絵本を用意する ・生活や遊びの中で、大小、形、色、数など、物の違いを見分ける力を育むために、保育者は環境を整えたり、意図的な関わりをしたりする
	徳の視点から	・じっくりと楽しめる環境を整え、できたという満足感を味わえるようにする ・思いや要求を自分なりに相手に伝えようとする気持ちを受け止め、共感する ・具体的に言葉を知らせたり、伝えたいことを仲介したりするなど、伝えようとする気持ちを支え、伝わった嬉しさを感じられるようにする ・友達との関わり方を伝えながら、一緒に遊ぶ楽しさが味わえるように仲立ちとなる
	体の視点から	・遊びの広がりや子どもの動線を考慮しながら遊具などを安全に配置し、体を動かす遊びを十分楽しめるようにする ・食事の機会や遊びを通してスプーンやフォークから箸に移行できるよう手を添えながら、正しい持ち方を知らせていく ・排泄の自立は個人差があるため、一人ひとりの排尿間隔を把握しタイミングを見ながらトイレに誘っていく ・緊急時に備え、日頃から保育者の話を聞き、一緒に行動できるよう繰り返し伝えておく

友達と一緒に・・・



「わあーい！水が流れたよ！！」



ここにもあった！



「手伝うよ」



的をめがけて・・・

